

様式第 6 号(第 2 条関係)

委員会等の会議録

1 会議名	令和 8 年度愛南町(篠山小中学校組合)総合教育会議
2 議題	(1) 愛南町のエデュケーションについて (2) 南宇和高校の魅力化について (3) 学校教育課及び生涯学習課からの報告について (4) 質疑応答
3 開催日時	令和 8 年 6 月 15 日(月) 9 時 30 分から 10 時 45 分まで
4 開催場所	愛南町役場本庁 3 階 大会議室
5 傍聴者数	1 人
出席者	
6 出席者	(1) 愛南町長 中村 維伯 (2) 愛南町教育委員会(篠山小中学校組合)教育長 中尾 茂樹 (3) 愛南町教育委員会教育委員 大野 甲子彦、上原 京子、宮本 裕司 (4) 篠山小中学校組合教育委員 岡原 健二(教育長職務代理者)、岡原 浩
7 オブザーバー	(1) 副町長 木原 莊二 (2) 総務課長 濱 哲也 (3) 企画財政課長 山本 光伸 (4) 子育て支援課長 土居 純子
8 担当所属	(1) 学校教育課 課長 坂本 一利、主幹 池田 大作、課長補佐 浅野 真二、課長補佐 二神 裕暁、課長補佐 蓮田 修平 (2) 生涯学習課 課長 織田 浩史
議事内容(次ページから)	

発言者	発言内容
坂本学校教育課長	それでは、ただいまから、令和8年度愛南町篠山小中学校組合総合教育会議を開催します。始めに、中村町長が御挨拶申し上げます。
中村町長	(開会挨拶)
坂本学校教育課長	それでは、次第の3の協議事項に入ります。 まず、議題の1、愛南町の教育ビジョンについて、中尾教育長、よろしくお願いします。
中尾教育長	(説明)
坂本学校教育課長	続いて、議題の2、南宇和高校の魅力化について、南宇和高校でこの4月から地域教育コーディネーターとして、高校の魅力化に携わっていただいております山口聖さんから御説明します。
山口地域教育コーディネーター	(説明)
坂本学校教育課長	続いて、議題3、学校教育課と生涯学習課から皆さんに4点御報告がございます。 まず、部活動の地域展開について、織田生涯学習課長、浅野学校教育課課長補佐から報告します。始めに、学校教育での取組を浅野課長補佐から、続いて、社会体育の視点から織田生涯学習課長から報告いただきます。
浅野学校教育課課長補佐	(報告)
織田生涯学習課長	(報告)
坂本学校教育課長	続いて、愛南町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について、蓮田学校教育課課長補佐から報告します。
蓮田学校教育課課長補佐	(報告)

坂本学校教育課長	続いて、学校の未来検討委員会の開催状況について、二神学校教育課課長補佐から報告します。
二神学校教育課課長補佐	(報告)
坂本学校教育課長	続いて、閉校施設の備品について、池田学校教育課主幹から報告します。
池田学校教育課主幹	(報告)
坂本学校教育課長	以上、学校教育課と生涯学習課からの報告でした。 最後に、質疑応答の時間を設けます。皆様、これまでの会議の内容、また教育行政全般についてでも結構です。何か御意見等ございませんでしょうか。
中村町長	本当に様々な分野の取組をしていただきありがとうございます。南宇和高校の魅力化は進んでいるかな、部活動の地域展開はこれからだな、という印象です。 部活動の地域展開の手法について、例えば、スポーツ協会や文化協会とも、それぞれの会長を含めてやりとりをしてもらったらと思います。文化祭だったり、スポーツフェスタだったり、マラソン大会であったり、愛南町民を対象とした大会をできるだけ充実させていく、バックアップしていくってことが、最終的にそのスポーツ協会や文化協会のメンバーと密に連携していく切り口になるんじゃないかな、と思います。イベントについて、地域の方が高齢で、運営等も厳しくなってくるところをどうバックアップしていくかですね。 愛南町内の様々なイベントが活気付いていくことで、参加したいと思う人も増え、その人たちと話ができていくんじゃないかと思っていますので、一つの参考意見として聞いてもらえればと思います。
宮本委員	南宇和高校の魅力化のゼミを見て、本当にわくわくドキドキ、素晴らしい計画をされ、考えられたなと感心しました。どんな講座を開くのか、すごく楽しみです。今年開いてみて、成果をまた発信していくんだろうと思い

大野委員	ますが、こういった活動の良さをしっかりと伝えていただけたらと思います。体験を重視されていて、それが子供たちの成長に繋がっていくのではないかと思います。ぜひこの活動を、いきなり充実というのは難しいと思いますので、徐々に生徒と一緒に検討しながら高めていただきたいと思います。 2つ目は部活動の地域展開について、もうこの形で進めていただけたらと思いますが、理想を言えば、過去、南宇和高校のサッカー部が中学校に教えに来てくれました。本当に良い取組だったんですが、なくなって久しいです。中学校の部活動が地域展開されて、小学校、高校が関わり、小中高でサッカーができるような一貫した活動になれば面白いかな、と思います。 もう一点、教職員の働き方改革について、まだ進んでいないなと感じていて、特に小学校が厳しいのかな、という印象です。小規模校の中でも、大きい学校では月100時間を超える時間外在校等時間となっている教員がいます。中学校では授業時間が少なくなって、空きの時間で仕事ができるんですが、小学校の教員では空きがなく、ずっと指導しっ放し、放課後に仕事をしなければならない、という状況でないかなと心配しています。 夏季休業や退校の時間について、トップダウンでこうしなさいというのはもちろん簡単ですが、逆に教員のやりがいも失うことになるので、一本松小学校では、夏季休業中に校内でしっかりと話し合うというような前向きな意見も聞いたので、トップダウンではなく、ボトムアップで現場の意見なりをしっかりと取り入れていただきたいと思います。 教育長の資料の中で、幼年教育の重要性について、お口にチャック、手は膝に、という概念について、保育所に浸透しているのかな、と思います。撮影でよく保育所に入りますが、今のお話とは乖離する現状があります。こういうことを共有する場はありますか。 一本松地域の場合、クラス替えがなく、ずっとそのまま同じになってしまいます。いろいろな選択肢があればいいな、何かのガイドラインじゃないですが、分かりやすさがあればいいなと思っています。愛南町は空気が良
-------------	---

中尾教育長	くて呼吸しやすい、と言われていますが、逆に酸素が濃すぎて合わない子供もいるんじゃないかと思います。それを調整する仕組みというか、ちょうど良い所に調整できたらいいかな、と思います。 お口にチャックというのは一つのスローガンなんです。全員が全員じゃなくて、そういうことも大事なんです。ただただ喋るなどではなく、なぜそうしなければならないか、しっかりお話をしている人を大切に思うから聞こうとする、というような姿勢を育てていくことが大事なんです。保育所と幼稚園では全然違います。幼稚園の園児は、今5人しかいません。当然幼稚園と保育所のハイブリッドと一緒に、という他市町の傾向もあります。子育て支援課とも連携を深めていかなければなりません。吉田園長とも話し合いながら、検討していかなければならないと思っていますところです。 空気濃度について、小学校、中学校、高校が繋がることで場面が変わり、多様なものに触れていく、縦と横の両方、愛南町でできることを考えていかなければならないと思っていますところです。
上原委員	県の教育センターで幼児教育アドバイザーとかで、南予地方で幼稚園等を訪問している中で、愛南町では幼稚園が一つしかありませんが、他市町では私立とか幼稚園も数多くあったりで、幼児教育を受ける場所があります。今後の愛南町の方角性として、幼児教育をどう捉えるかですが、幼稚園には教育として環境保育をしていますし、保育所は方針が変わったところで保育に教育の部分も入ってきています。 今後は、保育所、幼稚園、小学校の中で、共通理解として、こういう幼児の育て方を研修や話し合いなど町内で場を持って、ということも一つの方法かな、と思います。
坂本学校教育長	その他、何かございませんでしょうか。 以上で本日の協議が終了しました。令和8年度愛南町篠山小中学校組合総合教育会議を閉会します。